

# 仏教伝来



朝鮮半島では、百済くだらは百済、新羅しらぎ、高句麗こうくりの三國が長く争い、百済は日本にたびたび支援を求めてきた。日本は百済から新しい文化や技術を取り入れようと、互いに交流する中、遠くインドで生まれた仏教が百済を通じて日本に伝えられたのだ。

しかし、国に仏教を取り入れたい蘇我氏と、日本古来の神々をまつる物部氏の間で争いが絶えなくなってきた…。

仏教が受け入れられるまでには長い時間がかかるかもしれないが、私は、仏教によって日本がよりよい国になると信じている。

## 厩戸皇子(聖徳太子)

『日本書紀』によるプロフィール

- ・用明天皇の皇子
- ・生まれてすぐに言葉話した
- ・一度に十人の話を聞き分けられた
- ・後に推古天皇の摂政となり政治をした

それまで自然の神々を信じてきた日本では、人の形をした金銅の像をまつることはなく、初めて仏像を見て驚いただろうね…



## 蘇我氏、物部氏の争い

欽明天皇13年(552年)、百済の聖明王の使者が、欽明天皇に金銅の仏像や經典、仏具などを献上しました。欽明天皇は仏教の教えを大変よろこび、仏像をまつつて仏教を取り入れるかどうかを決定するため、臣下にたずねました。

ところが、賛成する臣下(大臣)の蘇我稲目と反対する臣下(大連)の物部尾輿は激しく対立します。両者の争いは、それぞれの子である蘇我馬子、物部守屋の親子二代にわたり、ますます激しくなっていくのです。

時は流れ、用明天皇2年(587年)、ついに蘇我馬子は皇子たちや群臣とともに、物部守屋を滅ぼすことを計画しました。両軍の激しい争いで一時は劣勢となった馬子軍でしたが、馬子とともに戦う厩戸皇子(聖徳太子)が四天王の仏像を作り戦勝を祈願。すると馬子軍は勢いを取り戻し、守屋軍に勝利しました。蘇我氏が勝利したことで仏教が取り入れられ、この後、法興寺(飛鳥寺)や四天王寺、法隆寺などが建てられました。

### 「記紀・万葉プロジェクト」からのお知らせ

県では、『日本書紀』完成1300年にあたる2020年に向けて、『日本書紀』を中心とした取り組みを進めています。



『日本書紀』に登場する人物やエピソード、ゆかり地などを紹介した冊子「なら記紀・万葉名所図会 日本書紀・歴史体感編」では、上記のエピソードを詳しく紹介しています。配布は下記問で。(1人1部)。

### 『日本書紀』のエピソードを映像でわかりやすくご紹介

#### 「奈良まほろまん」 仏教伝来 ～人々の葛藤～

『日本書紀』の中の興味深い11のエピソードを映像化した「奈良まほろまん」。県内各地に残るゆかり地の美しい風景やイラストが楽しめます。こちらも、ぜひご覧ください。



なら記紀・万葉ホームページ、YouTubeでご覧いただけます。

奈良まほろまん

検索